

銀南

第 48 号

青 少年 対 策 陵 南
地 区 委 員 会 事 務 局
042-665-4711
(陵南中学校内)

特集

23ページ

地震の備えは
大丈夫!?



先の大地震で、陵南中学校は帰宅困難者の避難所に指定されました。その日の様子について、校長先生に伺いました。

東北地方太平洋沖地震発生

～その時陵南中では～

陵南中学校 校長

清水 和彦

平成23年3月11日午後2時46分、日本の太平洋三陸沖を震源とする大地震が発生しました。その時陵南中は、各学年の保護者会の最中でした。生徒のほとんどは下校し、保護者会後に始まる部活動に参加する生徒が校舎内に待機していました。

一方私は、教育センターで校長会の会議中でした。地震の発生とともに会議は中止に。確認のために学校に電話をしましたが繋がりません。

車で学校に着いた時には、保護者会は打ち切りとなっていました。この時まで私は、「校舎の被害もなく、生徒も安全に下校できて良かった」という気持ちでした。しかし、校舎内に入ってその思いは一変しました。なんと、高架水槽のパイプが外れ、校舎内に10トンの水が流れ込んでいたのです。教職員は、その水のかき出しや校庭に避難させた生徒の指導でとんやわんやでした。私は、「情報の収集」「漏電の確認」「被害状況の再確認」「避難生徒の対応の確認」「市教委への被害報告」「保護者への連絡」等々、次々に教職員に指示をして動いてもらいました。その時、最も困ったのは電話が繋がりにくかったことでした。メールは辛うじて通じていましたが、時間的に間があったり、双方向性に課題があったりと十分な機能を発揮



できていませんでした。少ない情報の中で、行き当たりばったりの指示と対応という感じでした。

そんな状況時に市役所より、「帰宅困難者の避難所として陵南中が指定されて、高尾駅から帰宅困難者のみなさんが移動していきます」と連絡が入りました。その指示を受け、教職員へ避難所としての立ち上げ準備を指示しましたが、私の頭の中には、「受け入れ充分な状況なのか」という不安がよぎっていました。今になって思えば、私自身に「緊急時の避難所としての陵南中」という意識が薄く、指示の仕方や手順、施設設備の理解と機能性の把握、対応物品の種類や量等々災害時の対応の在り方の心構えが充分ではなかったと反省しています。もし、生徒が授業時や登下校時だったらと思うとぞっとするのが正直なところですよ。

余震が収まりかけた頃合いに、学校にいた生徒を帰宅方向別に集団をつくり、教員の先導で集団下

校をさせました。時期同じ頃、体育館には帰宅困難な方々が集まり出してその対応も始まりました。残った教員によって、温風送風機を設置したり、備蓄の乾パンを配布したり、マットを敷いたり息つく暇もなく次々と作業が進行していきました。

しかし、数時間後に大変な事態が起きました。体育館のトイレの水が流れないのです。当初、校舎とは別の配管だと思っていましたが、体育館の水も校舎の高架水槽の水を利用していたことが発覚し、当然のごとく水は出なくなりました。これは「これでは、避難所としては維持できない」と判断した私は、陵南中に集まった帰宅困難な方々(約170名)に隣の福祉センターへ移動してもらう事を、市役所に提案しました。やっとのことで許可があり、皆さんの誘導を終えたのは22時頃で、その後、あれやこれやと対応して、自席に戻ったのは24時頃だったと思います。教職員の中には電車が動かないため帰宅できず、宿直担当になった者もおりました。

この体験を通して学んだことは、日頃の訓練の大切さ、現実的かつ具体的な対応マニュアルの作成の必要性とそれに対応した十分な備蓄品の確保でした。

防災倉庫には何が入っているの？

市内の小中学校や市民センターには、空き教室やプレハブの防災倉庫があります。床面積が広い所には多くの物品が備蓄されていますが、広域への補給基地の役割も担っているそうです。

《全ての倉庫に備蓄されている物》

アルファ米（白飯） 1500～2000食
乾パン 0～1900食
毛布 300～500枚
断熱マット 300～700枚
タオル 600～1000枚
ポリタンク（20L） 30～100個
非常用飲料水袋（6L） 200枚
ストーブ 3～5台、仮設トイレ 3～6基、
のこぎり、スコップ、金てこ、ほか
（水・燃料はありません）

《一部の倉庫に備蓄されている物》

ミネラルウォーター 約4000L
アルファ米（白粥） 3000食
粉ミルク、哺乳瓶、石けん、紙おむつ（大人用）、
トイレットペーパー、下着セット、生理用品、
卓上コンロ（ボンベタイプ）、三角巾、軍手、
ござ、テント、ロープ（50m）、ほか

～大震災の被災者の体験談から～

3月11日、釜石に在住している友人は、東日本大震災に遭遇しました。

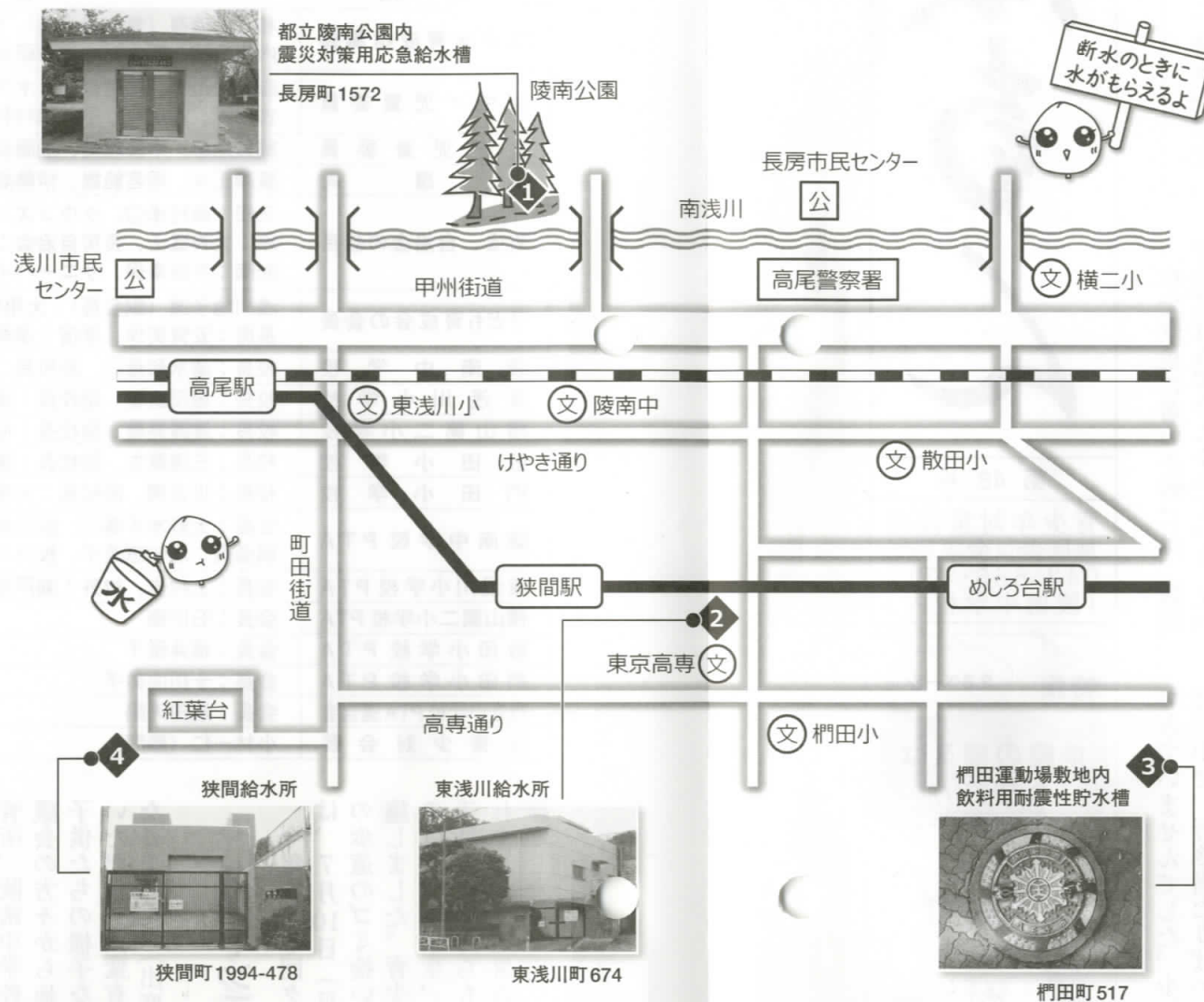
津波の被害はまぬがれたものの、ご主人や両親は職場に行ったままで、安否もわからないまま夜を迎えました。

避難所は家を失くした人たちであふれていて、後から行っても入ることもできず、食料も少ないため殺伐とした環境で、支援物資や食料など何ももらえませんでした。余震が続く中、彼女は近所の人たちで集まり、食料をみんなで持ち寄って車の中で不安な日々を過ごしました。その後、奇跡的に生き延びていたご主人たちとも出会うことができました。

彼女の話の聞くと、やはり日頃から水や食料の備蓄、そして、ご近所との交流が大切だと感じました。また、「夜寝る時には、非常持ち出し袋と靴を枕元に絶対置くように！」と話してくれた言葉は、実際に体験した人からのとても切実な言葉で、心に響きました。（編集委員S）

地震の備えは大丈夫？

～避難所と水のはなし～



青少対陵南地区内の避難所および防災倉庫

避難所の基本情報							
施設名	陵南中学校	東浅川小学校	横山第二小学校	散田小学校	桐田小学校	浅川市民センター	長房市民センター
所在地	東浅川町553-9	東浅川町550-22	並木町26-1	散田町5-23-1	桐田町571-2	高尾町1652-1	長房町506-2
指定場所	体育館（2カ所）	体育館	体育館	体育館	体育館	体育室、会議室など	体育室、会議室など
耐震化工事	完了	平26予定	平24予定	完了	平26予定	完了	完了
延べ面積	1,172㎡	699㎡	743㎡	741㎡	699㎡	256㎡	358㎡
想定収容人数※	568人	338人	360人	359人	338人	124人	173人

※想定収容人数＝延べ面積×80％／3.3㎡×2人（通路・共用部分として2割確保した上、ひとり当たり畳1枚分）

最寄りの防災倉庫の基本情報							
施設名	陵南中学校	東浅川小学校	横山第二小学校	散田小学校	桐田小学校	浅川市民センター	長房町防災倉庫
所在地	同上	同上	同上	同上	同上	同上	長房町506-23
設置年度	平18	平18	平10	平3	平18	平14	昭55
床面積	18㎡	18㎡	56㎡	56㎡	18㎡	16㎡	64㎡
種別	独立型	独立型	校内（3階）	校内（2階）	独立型	センター内（1階）	独立型

大震災や災害に見舞われたとき、私たちはどうすればいいのでしょうか。このたびの大震災で、耐震化工事の終わっていない体育館は、地震の時には避難所として使えないことが明らかになりました。地域内の避難所になる施設や防災倉庫、水の確保についての情報をお届けします。

八王子市生活安全部防災課の草木さんに聞きました。

Q1 小学校の体育館で耐震化工事が終わっていない所の避難所は？

Ans. 教室や校舎内の廊下、近隣の市施設などを活用。

Q2 夜間など、避難所の開設は？

Ans. 防災課職員の他、当該施設に勤務または近隣に居住する市職員（教員も含む）など複数人が任命されている。

Q3 防災倉庫の開放は？

Ans. 各施設を担当する者が必要と判断したときに使用される。

Q4 備蓄食料の入れ替えは？

Ans. 使用期限の1年前に回収し、訓練に使用。備品の補充は同じ年度中に実施。（空になる期間がある）

Q5 アルファ米を食べるための水は？

Ans. 小中学校において、飲料水は、プールの水を濾過・塩素殺菌して確保することを想定している。また、近隣の給水所①②④や飲料用耐震性貯水槽③などの利用も可能。

Q6 飲料用耐震性貯水槽③とは？

Ans. 100tの水が蓄えられる地下水槽。水槽の水を飲用するには、濾過と塩素殺菌が必要。

Q7 停電時でも水はもらえるの？

Ans. 自家発電施設を備えているので、大丈夫。

Q8 その他、水の確保は？

Ans. 井戸水（生活用水）の供与について、市内のいくつかの企業などと協定を結んでいる。（近隣では、佐久間製菓、佐藤製菓、ふろっぴィ、永生病院など）

Q9 防災倉庫の備蓄計画の前提として、市が市民に期待する備えは？

Ans. 市で発行している防災マップの2ページ目に記載している一次持出品および二次持出品（災害復旧までの数日間、最低3日分、自活するため）を備えてほしい。

『青少年対策地区委員会（略称：青少対）』とは!?

市内中学校の学区ごとに組織されている民間団体で、各地区の実情に応じて、家庭・地域・学校が一体となった活動を行い、青少年を巡る社会環境の浄化や青少年の健全育成を進めています。

平成 23 年度 青少年対策陵南地区委員会委員

◎印は青少対副会長

所 属	氏 名	(順不同、敬称略)
青少年育成指導員	和久田清吾（青少対会長）、吉澤映子◎、 内田貴博、岡本功、佐藤研治、長岡陽子、八木新子	
民生・児童委員	森脇義治◎、加藤悦朗、木下智穂子、小山トシ子、佐々木武麿、福田隆一、 古川洋、古川りう子、松村和代、森秀三、屋代春枝、山口正夫、山本幹雄、横内咲江	
主任児童委員	綿貫規恵、中條雅美、加藤祐子、福嶋由起、上村恵三子	
保 護 司	廣瀬正夫、雨宮範雄、伊勢崎文子、高野美恵子、福田秀之	
町会、自治会の会長	三田：嶋村孝◎、タウンズ：嶋田禎二、原宿：町田貞之、新地：李代亮、 原：大貫猛士、長房自治会：松葉浩充、長房町会：生永恭博、蜂の子：小林央、 光南：手塚幸保、サニーハイツ：増田澄子、狹間住宅：川端清隆	
子ども育成会の会長	浅川地子連（副会長）：大用明希、つくし：和泉美希、三田：黒田昌代、 長房：安齊美保、原宿：津崎忠男、原どんぐり：吉澤かおる	
陵 南 中 学 校	校長：清水和彦◎、副校長：竹内康裕、生活指導主任：山本栄作	
東 浅 川 小 学 校	校長：堀田直樹、副校長：建信子、生活指導主任：川原敦子	
横 山 第 二 小 学 校	校長：渡邊晃庸、副校長：仙北谷仁策、生活指導主任：水谷博子	
散 田 小 学 校	校長：三澤章生、副校長：園山直樹、生活指導主任：高野恭輔	
櫛 田 小 学 校	校長：世古潤、副校長：大串亮、生活指導主任：菅野君江	
陵南中学校 PTA	会長：大野木千春◎、副会長：佐藤篤子、副会長：前田明美、 副会長：酒匂恵美子、校外：吉鶴千鶴代	
東浅川小学校 PTA	会長：上村歩、校外：瀬戸理香	
横山第二小学校 PTA	会長：石川肇	
散田小学校 PTA	会長：福井雅子	
櫛田小学校 PTA	会長：十川由美子	
市立小学校 PTA 連合会	会長：嶋田天陽	
元 青 少 対 会 長	小林一仁（顧問）	

情報交換会

9月3日（土）、東京農業大学の吉川博文教授に「放射能の影響と私たちの生活」の講演をいただき、「我々は放射線の中で生きている」、「リスクとメリットのバランスを考えて放射線を利用」、「現在の関東地方のレベルでは問題ない」、そして「放射能を正しく怖がる」ということを学びました。

第2部では、イトーヨーカドー、地域子ども家庭支援センター館、浅川保育園、浅川児童館、東浅川小学校学童保育所、陵南中学校地域運営協議会の方々から地域における子供たちの様子などをお話しいただき、大変有意義な会となりました。（出席者50名）

クリーン活動

今年度第1回クリーン活動は、7月10日（日）、地域内の歩道のゴミ拾いを中心に実施しました。青少対の関係者のほか、小学生、陵南中の部活動の生徒たちも参加してくれました。猛暑の中、お疲れでした。

管外研修

あきる野市のふるさと工房で施設見学の後、伝統的な手漉き和紙「軍道紙」に挑戦。押し花などを漉き込んでオリジナルはがきを作りました。その後、弘沢の滝を散策。往復のバスでは、参加者にマイクを回して交流を図りました。和気あいあいとした実り多い一日となりました。7月2日（土）実施。

編集後記

今回の編集で、今まで以上に地域の大切さを実感しました。

編集委員（各校PTA）

陵南中 酒匂 恵美子
東浅川小 木村 由美子、柴野 一美
田中 由美子、谷 由喜江
横山第二小 中野 香織、藤本 美紗
散田小 矢野 裕美、石本 希
櫛田小 大石 智史、清水 一美
青少年育成指導員 長岡 陽子